

私説

論説室から 裸の王様に届くか水軍魂

もう旧聞に属するが、今年の本屋大賞に『村上海賊の娘』が選ばれたことを喜んでい
る。わがルーツは、この村上水軍の一員だ。
海賊というと船を襲って金品強奪する悪党、
このよろしくないイメージが強い。だが、家
系の名譽を守るわけではないが、海の治安を
守り平和構築に貢献する一面もあった。

そして村上水軍といえば、この人だ。正真
正銘、能島村上家の末裔で、「自民党きって
の良識派」と言われてよいであろう村上誠一郎
衆院議員である。特定秘密保護法や原発再稼
働に反対し、今また集団的自衛権をめぐる安
倍晋三首相の姿勢を糾弾する。

月刊誌で「安倍さんは国会で『最高の責任
者は私だ…』と述べていますが、憲法解釈の

最終的な責任の所在はどこにあるのか、とい
う基本的な問題から、安倍さんは考えるべき
ではないか」と法解釈権限は司法にあり、行
政府でも立法府でもなく、首相らは基本すら
知らないのかと批判。日本の若者が戦場で犠
牲になるかもしれない重大な決断を、閣議決
定で解釈改憲するのは「将来を担う若者に大
変失礼だ」と心に響く言葉で訴えた。

首相は第一次政権の蹉跌から何を学んだの
か。同じように周囲をお友達で固め、異なる
価値観を排除する。ブレーキ役が不在の「裸の
王様」だから無用に近隣国を刺激し、米国も
失望させる。ここは耳の痛い進言を聞き、右
に傾きすぎた舵を正すべきだ。(久原 穩)